

初代牧師のことをもっと知りたい 1953

はじめに

堤通に宣教師館ができてから、グラント師は学生へのアプローチの手段として英語で聖書を学ぶ集まりを、またキャサリン夫人はご近所の方にアメリカ風料理を教える「ゴスペル料理教室」を、それぞれ宣教師館で開始します。黙っていても参加者は自然に集まる、というわけにはいきません。近隣の人たちは宣教師館がこの場所に建てられることに強く反対していました。そのような地域の中で参加者を募ることは大変なことですが、とにかく地道に声掛けをしていくしかないのです。キャサリン夫人が料理教室の参加者を求めてご近所を戸別訪問したある日の様子が、グラント師の著書¹の中で次のように紹介されています。

ある日近所を訪問中、キャサリンはある家の前で立ち止まり、日本での習慣通り玄関の扉を開け、「ごめんください」と呼びかけた。返事はなかった。もう一度この挨拶を繰り返したところ、非常に小さな声で「どうぞお入りください」という返事が聞こえた。靴を脱ぎ、彼女は居間へと続く廊下に入った。居間は、日本の家ではしばしばダイニングとしても機能し、夜には寝室として使われることも多い。紙の引き戸を開けると、彼女は明らかに重い病を患った女性が布団の上で寝ているのを発見した。不意を打たれたキャサリンは小声で謝り、道を駆け戻って家に帰り、花と食事を用意して病を患った女性の家へと急いだ。それを部屋に置くと、彼女はまだつたない日本語で手短かに祈った。女性にはなぜ訪問したかを告げ、料理教室や教会の集会に出席するよう招いた。

数日後、美しい着物を着た中年の女性が私たちの玄関に現れた。キャサリンは彼女が最近訪ねた病気の女性だということに気づいた。深々と礼をしながら、彼女はキャサリンに何度も「先日は大変お世話になりました」と礼を言い続けた。家に入り、以下の話しを語った彼女の目からは涙が溢れていた。(後略)

その話しの内容とは、彼女は若い頃にクリスチャンになったのですが、仏教徒の夫と結婚後は、長い間信仰の道からは遠ざかって暮らしていたとのこと。それがキ

ヤサリン夫人の先日の訪問によって、主のもとに立ち返りたいと強く願うようになったというのです。この女性こそが、私たちの敬愛する「お花の先生」こと莊子聡子さん²でした。その後莊子さんはグラント宣教師夫妻の働きを助け、仙台での開拓伝道を始めたばかりのお二人の心強い支えとなったのです。正に「主の山に備えあり」（創世記 22：14、口語訳）です。

1. 初代牧師は長崎直得

前回述べましたが、グラント宣教師夫妻が仙台で開拓伝道を本格的に開始したのは、1952年（昭和27）11月からです。そして数カ月たった1953年（昭和28）2月に、長崎直得牧師が与えられます³。日本人牧師が備えられ、グラント宣教師夫妻にとってはさぞかし心強かったことでしょう。仙台教会はまだ組織されていませんので、「仙台バプテスト伝道所初代牧師」ということになります。仙台での最初期の開拓伝道を担ってくださった牧会者として、記憶にとどめるべきお方であることは確かです。

ところが長崎牧師に関しては、あまり詳しい情報が教会には残されていません。1950年（昭和25）に日本バプテスト呉キリスト教会に着任し牧会に励み、その後「1953年（昭和28）新生運動を機に東北地方の開拓伝道の拠点として仙台が決定し、長崎牧師は故郷伝道として仙台に出発」⁴したとのこと。となると出身は東北ということなのではないでしょうか？一方グラント師の著書⁵によれば長崎牧師は九州が故郷のようで、どちらが正しいのか不明です。長崎牧師は1952年（昭和27）11月に仙台で行われた特別伝道集会の講師の一人でしたので、この頃までには仙台に来られる計画が、連盟や宣教師や本人の間でだいぶ進行していたのでしょう。そして1953年（昭和28）2月22日⁶に仙台バプテスト伝道所に着任されます。かなり中途半端な時期なのが気になりますが、その事情も分かりません。呉教会で何かトラブルでもあったのかと勘繰りたくもなります。そして1年間の仙台での働きの後、突如1954年（昭和29）3月に辞任⁷されてしまいます。出身地がどこなのか、年齢や信仰歴、人柄や独身なのか既婚者なのかも、また辞任されてからの消息も知ることはできません。グラント師もあまり長崎牧師については言及しておらず、著書の中でわずかに「毎週日曜日に御言葉を取り次いでいた長崎先生は、九州にある故郷に帰るように導かれていると感じ、関谷先生がその仕事を引き継ぎました」と語るのみです⁸。

また、仙台教会設立メンバーのお一人だった先程の莊子聡子さんは、記念誌の中で「初代の長崎牧師は、九州から単身赴任、半年後に一身上のご都合で辞任され、まことに残念でした」と述べています⁹。「半年後」というのは莊子さんの記憶違いかもしれませんが、「一身上のご都合」とは何だったのでしょうか？『猷堂十周年記念文集』（復刻版）¹⁰には「家族の事情の為」と書かれていますが、それ以上詳しく知ることはできません。

2. バプテストの神学校の歩み

長崎牧師の出身神学校がどこであったのかが分かれば、そこから同師に関する情報がもう少し得られるかもしれません。ただ、日本のバプテストの神学校は、歴史の中で複雑な歩みを辿ってきましたので、神学校を特定するのはそう簡単ではありません。アメリカ南部バプテスト連盟外国伝道局の事業として、「福岡バプテスト神学校」が開校されたのは1907年（明治40）ですが、3年後には南部バプテストとアメリカン・バプテストの神学校が合併し、「日本バプテスト神学校」が設立されます。ところが10年も経たないうちに、教育方針の不一致等により閉校の方向が確実となったこともあり、南部バプテストの神学校として1923年（大正12）に、西南学院高等学部神学科が誕生することになります。その後の戦時体制の中、紆余曲折の末に再度「日本バプテスト神学校」をスタートさせますが、宗教団体法の下プロテスタントの全ての教派の教会は、1941年（昭和16）に日本基督教団として合同することになります。そのため教派神学校であった「日本バプテスト神学校」は翌年廃止されます。

戦後、1947年（昭和22）4月1日に西南学院専門学校に神学科が開設され、翌々日に設立された日本バプテスト連盟傘下の神学校として歩み出すことになります。その後1949年（昭和24）に西南学院大学の発足に伴い、神学科は学芸学部神学専攻、さらには文商学部神学専攻と名称が変わっていきます¹¹。このあたりの時期の大学の記録を調べれば、あるいは長崎直得牧師について何か知ることができるのかもしれませんが、そう簡単に部外者が調査することはできないでしょう。

3. 初代牧師のことをもっと知りたい

先日、故莊子聡子さんの出身校を確かめるために、ご親戚の方に問い合わせをし

ました。ある程度の情報は得られたのですが、ご親戚の中でも聡子さんについて詳しくご存じの方は既においでにならず、正確なところは分からない状態でした。時の流れとはそのようなものなのです。長崎牧師に関しても同様の状態であるのかもしれませんが、まだ可能性は残っていることでしょう。もし仙台バプテスト伝道所初代牧師・長崎直得師に関して何かご存じの方がおいででしたら、どんな情報でもかまいませんので、是非お教えいただければ幸いです¹²。

(文責：小林孝男)

¹ 『主の息吹の中で』、24~26 頁

² 1954 年(昭和 29)11 月 7 日に日本基督教団塩釜教会(現在の日本バプテスト同盟塩釜キリスト教会)から転会。仙台教会の初代婦人会長。教会役員を長年務める。1909 年(明治 42)5 月 16 日生~2002 年(平成 14)12 月 2 日没

³ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

⁴ 呉キリスト教史編集委員会『呉キリスト教史』(1994)、77 頁

⁵ 『ワース・C・グラント師の日本観』、297 頁

⁶ 資料(1955/03/25_仙台バプテスト伝道所沿革と教会員名簿)

⁷ 『ワース・C・グラント師の日本観』、297 頁

⁸ 同上

⁹ 仙台教会献堂 40 周年記念委員会『献堂四十周年記念誌』(日本バプテスト仙台基督教会、1995)、63 頁

¹⁰ 復刻版は『献堂四十周年記念誌』の 43~62 頁に収録されている。

¹¹ 『日本バプテスト連盟五十年史』、145~151 頁

¹² 長崎直得牧師は、仙台バプテスト伝道所に着任する以前は呉教会の牧師であった。遅まきながら同師に関する情報提供を、呉教会にお願いしているところである(2024 年 9 月)